

学芸員に関する科目（平成28年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
90010	90011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	高橋 英子	[司]「生涯学習概論」で相互乗入読替 いずれか一つ履修
90010	90012	〃（月曜Ⅳ限）						
		博物館概論	2	30	1	前期	角屋由美子	
90030		博物館経営論	2	30	1・2	後期	村野 隆男	
90040		博物館資料論	2	30	1・2	後期	角屋由美子	
90050		博物館資料保存論	2	30	1・2	集中	塩田 達也	2月開講
90060		博物館展示論	2	30	2	前期	阿部 哲人	
90070		博物館情報・メディア論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	
		博物館教育論	2	30	1	前期	佐藤 鎮雄	
90090		博物館実習一	1	45	2	前期	村野 隆男	「博物館実習一」と「同二」を併せて受講
90100		博物館実習二	2	90	2	集中	吉田・菌部	学外実習

(注) 「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

学芸員に関する科目（平成29年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
90010	90011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	高橋 英子	[司]「生涯学習概論」で相互乗入読替 いずれか一つ履修
90010	90012	〃（月曜Ⅳ限）						
90020		博物館概論	2	30	1	前期	角屋由美子	
90030		博物館経営論	2	30	1・2	後期	村野 隆男	
90040		博物館資料論	2	30	1・2	後期	角屋由美子	
90050		博物館資料保存論	2	30	1・2	集中	塩田 達也	2月開講
		博物館展示論	2	30	2	前期	阿部 哲人	
90070		博物館情報・メディア論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	
90080		博物館教育論	2	30	1	前期	佐藤 鎮雄	
		博物館実習一	1	45	2	前期	村野 隆男	「博物館実習一」と「同二」を併せて受講
		博物館実習二	2	90	2	集中	吉田・菌部	学外実習

(注) 「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
高橋 英子			

達成目標	生涯学習の理論や歴史的動向、法制度に関する基礎的な理解を深める。 生涯学習の意義や理念を具体的な実践事例に照らして考える力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・生涯学習社会の意義</p> <p>第2回 生涯学習と現代社会</p> <p>第3～4回 生涯学習の理念①②</p> <p>第5回 生涯学習を支える社会教育</p> <p>第6～7回 社会教育行政①②</p> <p>第8回 専門施設としての図書館と博物館</p> <p>第9回 女性と生涯学習</p> <p>第10回 ボランティア活動と市民活動</p> <p>第11回 学校・家庭・地域の連携協力</p> <p>第12～13回 生涯学習の内容・方法・形態①②</p> <p>第14回 学習への支援と学習成果の評価</p> <p>第15回 まとめ ※関係法令は講義内で随時触れる。</p>
授業内容・方法	授業は講義形式で行う。生涯学習の基礎的な概念や法令、施策の動向や社会教育行政、学校教育・家庭教育との関連、社会教育施設、専門的職員の役割、生涯学習活動への支援等について概説する。
テキスト	笹井宏益・中村香著『生涯学習のイノベーション』玉川大学出版部、2013、（価格2400円＋税） その他、必要に応じて関連する資料やレジュメを適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	生涯学習は理論や法令を覚えるだけでなく、学びへの主体的参加が大切です。講義では実践事例を紹介し、皆さんの経験や考えも参考にします。具体的なイメージを持って生涯学習の理解を深めましょう。
評価方法	テスト（50％）、ミニレポートの提出（30％）、授業への参加度（20％）。授業は2/3以上の出席が必要。

講義科目名称：博物館概論（90020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	学芸員必修
担当教員			
角屋 由美子			

達成目標	博物館の目的と機能、その歴史と現状、博物館倫理、関連法規等博物館に関する基礎的知識の習得を図ることをねらいとする。 博物館のあるべき姿を模索し、生涯学習における博物館の役割と成長を考えながら、博物館の見方、利用の仕方等についても理解を深める。
授業計画	<p>第1回 博物館学とは</p> <p>第2回 博物館の歴史（世界）</p> <p>第3回 博物館の歴史（日本）</p> <p>第4回 博物館の機能</p> <p>第5回 博物館の役割と入館者（1）</p> <p>第6回 博物館の役割と入館者（2）</p> <p>第7回 博物館教育論</p> <p>第8回 博物館の管理/運営（1）</p> <p>第9回 博物館の管理/運営（2）</p> <p>第10回 博物館職員</p> <p>第11回 博物館とその建物（1）</p> <p>第12回 博物館とその建物（2）</p> <p>第13回 博物館倫理</p> <p>第14回 博物館関連法規</p> <p>第15回 博物館のあるべき姿 （講義内容に変更場合があります。）</p>
授業内容・方法	講義を中心に考え方や意見を求める。
テキスト	必要に応じてプリントなどを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史・美術・民俗・考古・自然科学・保存科学等の専門分野は現場において重要なことであるが、その前提として博物館の機能についての共通認識と、博物館の種類による特徴を明らかにして、博物館とはいかなる施設かを理解してほしい。 そして、時代による必要性、また変わってはならないものについて学生の意見を聞きながら、理想の博物館をとともに考えたい。
評価方法	試験、授業への参加度

講義科目名称：博物館経営論（90030）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
村野 隆男			

達成目標	博物館における組織や施設の運営管理を理解し、ミュージアム・マネージメントと呼ばれる経営面の諸問題について、実践例や独自の企画をもとに考察する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館の組織と運営 2 経営の中心となる「展覧会」の企画 3 予算編成と運営 4 広報計画の策定 5 広報活動の実践 6 サブ・プログラムの企画 7 ミュージアム・ショップの運営 8 博物館経営の実際と問題点
授業内容・方法	博物館の経営上、最も重要な事業である展覧会（特別展）の開催について、企画から運営の実際を机上で学習する“VIRTUAL EXHIBITION”を展開し、特に経営に直接結びつく企画と広報に重点を置いて授業を進める。
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	マネージメントにおけるバランス感覚や情報化社会への対応といった、現代社会が直面する問題として博物館経営を理解するとともに、近未来において自身が経験していく課題への対処法の一つとして捉えてほしい。
評価方法	独自の企画を積み上げていく授業内容のため、出席が大前提となる。試験は行わず、授業時間内に順次作成するレポートの評価となるが、いかに真面目に、かつ意欲的に取り組んだかをポイントにする。

講義科目名称：博物館資料論（90040）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
角屋 由美子			

達成目標	博物館資料の概念及びその収集・整理保管・保存・調査研究・展示という一連の流れや、それぞれに関する知識の習得を図り、理論と実践の関係を定着させる。
授業計画	<p>第1回 博物館資料とは</p> <p>第2回 博物館資料の収集</p> <p>第3回 博物館資料管理システム</p> <p>第4回 博物館資料の分類/整理(1)</p> <p>第5回 博物館資料の分類/整理(2)</p> <p>第6回 博物館資料と調査研究</p> <p>第7回 美術工芸資料について(古文書/典籍)</p> <p>第8回 美術工芸資料について(絵画)</p> <p>第9回 美術工芸資料について(仏像/仏具)</p> <p>第10回 美術工芸資料について(甲冑/刀剣)</p> <p>第11回 美術工芸資料について(染織)</p> <p>第12回 歴史資料について</p> <p>第13回 民俗資料について</p> <p>第14回 博物館資料の修理/修復－国宝上杉本洛中洛外図屏風を中心に</p> <p>第15回 博物館資料の修理/修復－国宝上杉家文書を中心に (講義内容に変更の場合があります。)</p>
授業内容・方法	講義を中心に考え方や意見を求める。
テキスト	必要に応じてプリント等を配布
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	博物館資料は博物館の主体をなすものであるから、資料管理の重要性と利便性、情報発信・教育普及に大きく影響する業務とその内容について理解を深め、博物館資料に対する緊張感とその魅力を感じてほしい。学生の発言を聞き、課題について解決できるよう導きたい。
評価方法	試験、レポート及びカード等の提出物、授業への参加度

講義科目名称：博物館資料保存論（90050）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
塩田 達也			

達成目標	古文書・古典籍（紙資料）を中心に、博物館資料の適切な保存についてその概要を知るとともに、実際的な保存方法や保存環境について理解する。
授業計画	－
授業内容・方法	まず、種別や材質・性質の違いなど、博物館資料全般の概要・資料保存の意義と役割を論じ、それぞれ適切な保存の方法や環境とは、いかなる考え方に基づいて実践されているかを論ずる。次に、古文書・古典籍（紙資料）等の保存について、その基本的な概念と実際的な方法・環境について論ずる。さらに、地震・津波等の被災資料に対する処置や保存に関する考え方についても触れる。
テキスト	各回で資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館における資料の保存は、個々の資料の特性を理解し、それぞれに適した方法を選択しなければなりません。博物館資料保存の全般を知り、かつ実際的な方法・環境をここで学ぶことによって、個々の資料の保存に対応できる考え方・技術を会得しましょう。
評価方法	授業への参加度・レポート等

講義科目名称：博物館展示論（90060）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	学芸員必修
担当教員			
阿部 哲人			

達成目標	1、博物館展示の制作過程を理解する。 2、効果的な展示のための方法を理解する。
授業計画	第1回 博物館展示の歴史と課題 第2回 博物館の種類と展示手法 第3～5回 博物館の建設 第6～8回 企画展の制作 第9回 展示のリスク 第10～12回 展示効果の拡充 第13～14回 展示の評価 第15回 まとめ
授業内容・方法	博物館の現状と、その基本的業務である展示のあり方と効果的な方法、課題について学び、実際に展示を企画するために基礎的な知識を習得する。
テキスト	参考文献は授業で指示。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館で展示される資料が持つ価値を観覧者に伝えるためにどのような努力がなされているのかを理解してもらいたいと思います。
評価方法	試験

講義科目名称：博物館情報・メディア論（90070）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
小池 隆太			

達成目標	1. 博物館・美術館等におけるメディアの活用方法及び情報発信の課題等について理解します。 2. ICT社会における著作物や知的財産の権利関係について理解します。
授業計画	<p>第1回 メディアとコミュニケーション</p> <p>第2～3回 メディア教育の理論と実践</p> <p>第4回 学芸員とメディア技術</p> <p>第5～7回 視聴覚メディアの教育工学的特性</p> <p>第8回 情報システムとコンピュータ</p> <p>第9回 メディアとインターフェース</p> <p>第10回 マルチメディアとインターネット</p> <p>第11～12回 著作権と権利処理</p> <p>第13回 知的財産権と個人情報保護・肖像権</p> <p>第14～15回 デジタルメディアとアート活動</p>
授業内容・方法	現代のデジタルメディアをめぐる諸問題について、具体的には教育展示や情報提示のために用いられる視聴覚メディアの理論と歴史、情報処理とコンピュータの基礎知識、ならびに知的財産権と権利関係をめぐる問題について講義形式で学びます。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	デジタルメディアが博物館・美術館にもたらす新しい可能性について考える科目です。これらの施設を利用する際には利用者にとっての情報・教育コミュニケーションのあり方を考えてください。
評価方法	授業での課題提出30%、期末レポート課題70%。

講義科目名称：博物館教育論（90080）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	学芸員必修
担当教員			
佐藤 鎮雄			

達成目標	1. 博物館における教育活動を支える基礎的・基本的な教育理論、博物館固有の教育方法、社会教育機関としての位置づけと役割を理解する。 2. 博物館における教育活動に携わるうえでの基礎的な能力を養うことをめざす。
授業計画	第1～3回 教育の意義と理念 第4回 教育の目的・内容・方法 第5回 教育課程と学校 第6回 学校教育と社会教育 第7回 日本における教育の発達 第8回 社会教育と生涯学習 第9回 社会における博物館 第10回 博物館教育の意義と目的 第11～12回 博物館教育の方法 第13回 博物館の教育活動 第14回 博学連携 第15回 博物館教育の今後
授業内容・方法	
テキスト	適時プリントを配布、必要に応じ参考文献書籍を紹介する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館や資料館等の入館体験が大事、なるべく日常生活において入館体験をしておいてほしい。なるべく具体的事例に触れて共に考えながら目標に到達できるようにしよう。
評価方法	授業への参加度、およびレポート提出。

講義科目名称：博物館実習一（90090）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	学芸員必修
担当教員			
村野 隆男			

達成目標	博物館学芸員の課題となる調査・研究、収集・保管、展示、教育普及について、仮想展覧会を企画運営することにより実践的な理解を深める。		
授業計画	1	博物館学芸員の業務（実習概説）	
	2	展覧会の企画	
	3	カタログ等の制作	
	4	ディスプレイの計画	
	5	美術品の取り扱い	
	6	作品の集荷	
	7	作品の展示	
	8	必要文書の作成	
授業内容・方法	博物館の経営上、最も重要な事業である展覧会（特別展）の開催について、企画から運営の実際を机上で学習する“VIRTUAL EXHIBITION”を展開する。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館事業の中心となる展覧会を身近に想定することによって、学芸員が直面する事態について理解を深めるとともに、近未来において自身が経験していく課題への対処法の一つとして捉えてほしい。		
評価方法	独自の企画を積み上げていく授業内容のため、出席が大前提となる。試験は行わず、授業時間内に順次作成するレポートの評価となるが、いかに真面目に、かつ意欲的に取り組んだかをポイントにする。		

講義科目名称：博物館実習二（90100）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2	2	学芸員必修
担当教員			
吉田歆、藺部寿樹			

達成目標	博物館において実習を行うことで学芸員としての資質や経験・心構えを身につける。		
授業計画	第1回	事前指導 1 博物館実習の心構えと準備	
	第2回	事前指導 2 各館での実習予定の確認	
	第3回	館園実習 1 各館における博物館実習の実施	
	第4回	館園実習 2 各館における博物館実習の実施	
	第5回	館園実習 3 各館における博物館実習の実施	
	第6回	館園実習 4 各館における博物館実習の実施	
	第7回	館園実習 5 各館における博物館実習の実施	
	第8回	館園実習 6 各館における博物館実習の実施	
	第9回	館園実習 7 各館における博物館実習の実施	
	第10回	館園実習 8 各館における博物館実習の実施	
	第11回	館園実習 9 各館における博物館実習の実施	
	第12回	館園実習 10 各館における博物館実習の実施	
	第13回	館園実習 11 各館における博物館実習の実施	
	第14回	事後指導 1 実習内容の振り返りと成果の整理	
	第15回	事後指導 2 受講者全員による実習成果報告会と質疑応答	
授業内容・方法	①「博物館実習一」で実務指導を行い、直前に事前指導を行って学外の博物館で実習を行う。 ②博物館実習ノートにのっとり、博物館見学などに関する指導を行う。 ③学外実習後の博物館実習ノートをもとに、事後指導を行う。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外での博物館実習を経験した上で、学芸員として必要なことは何かを自覚して欲しい。		
評価方法	各館の評価（60%）、博物館実習ノートと事前指導・事後指導への取り組み方（40%）		